教えて！営農さん

秋は果樹にとって新植、改植の適期！

落葉果樹の新植・改植のポイント

苗木を植え付けてから一定の収量が確保できるまでに数年の期間を要する落葉果樹は、計画的な新植・改植が必要です。苗木の適切な植え付けで、翌春以降に備えましょう。

［編集担当］
営農振興課
（左から）
藤本 水緒
岡野 樺蓮

「教えて！営農さん」では、農産物の栽培に関する情報をお届けします。

新植・改植の手順

❶直径1m、深さ30～40cmの植穴を掘り、堆肥を入れる。［完熟堆肥30kg］

❷掘り起こした土に肥料を混ぜ、2/3程度埋め戻す。埋め戻す土は中央部を盛り上げておく。［苦土石灰2kg、ヨウリン1kg、鶏ふん3kg］

❸盛り上げた山に沿って苗木を置き、根を四方に広げて土を埋め戻す。

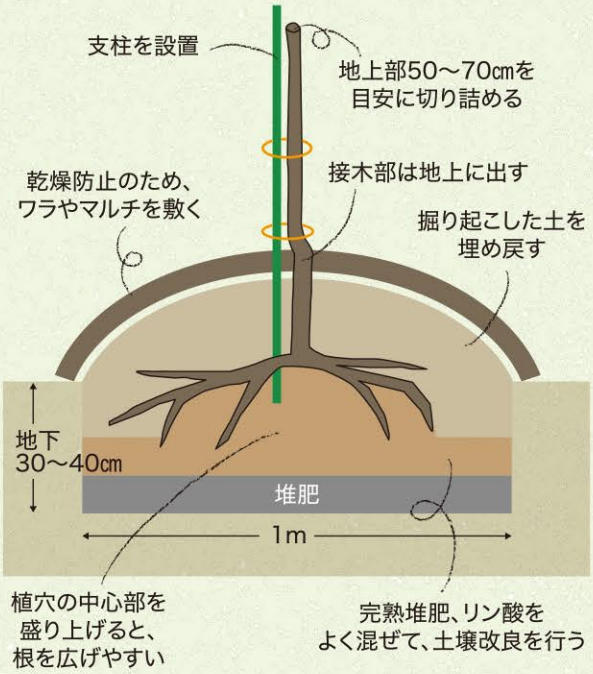
❹地上部50～70cm程度で、充実した葉芽がついている部分を残し、切り詰める。

❺たっぷり潅水をし、土と根をなじませる。支柱を立て、固定する。

❻土が乾かないように敷きワラなどをする。

❼植え付け後、乾燥が続く場合は、定期的に潅水を行う。

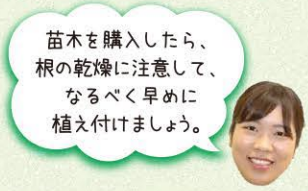
植付けイメージ



営農EYE

樹を密に植えると果実に日が当たりにくくなり、果実品質が低下します。果樹の種類や品種、仕立て方などによって異なりますが、植栽間隔の目安は、以下のとおりです。

種類	間隔
カキ	6m×6m
イチジク	6m×6m
ウメ	7m×7m
モモ	6m×6m



はじめての家庭菜園

リーフレタス

毎日のサラダに採れたてを

結球しないタイプのレタスで、栽培も比較的簡単です。葉が縮れているため、日本では「ちりめんちしゃ」と呼ばれています。赤葉種と緑葉種があり、赤葉種はサニーレタスの名で知られています。

❶種まき　被せる土はごく薄く

レタスの種は、発芽に光を必要とする好光性。プランターに培養土（「JAの土」）を8分目まで入れ、中央にまき溝をつける。種が重ならないように注意しながらまき、種が隠れる程度に土をかぶせて上から押さえる。

❷管理　間引きしすぎないようにする

発芽したら、あまり間引きしすぎないように、しばらくそのまま育てる。本葉が4～5枚になったら2週間に1回を目安に、化成肥料10g程度をプランター全体にまき、株元は軽く土寄せする。

❸収穫　必要な時に必要な分を収穫

株が大きくなってきたら、必要な分だけ外葉からかき取っていく。こうすると、長く収穫を楽しむことができる。

ここに注意

- レタスの仲間はハモグリバエの被害を受けやすいので防虫ネットをかけるとよい。食害されると、葉に白い線がつく。被害を受けた葉は、葉ごと処分する。

栽培のポイント

- 種の上に被せる土はごく薄く。
- 発芽後はあまり間引きすぎないようにする。

用意するもの

- 種
- 培養土
- プランター
- 鉢底石

栽培カレンダー

9	10	11	12	1	2	3	4	5
	種まき					収穫		

参考文献：コンテナでつくるはじめての野菜づくり（新星出版）